発行 全国商工会議所青年部連合会
東京都千代田区丸の内3－2－2
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03-283-7847
編集 広報委員会

翔生（しょうせい）

平成2年（1990年）
11月1日号
通巻 第9号
（年2回 3月・10月発行）

第10回全国大会、浜松で開催！

全国大会の会場となる「グランドホテル浜松」

16日 式典と「人、ふれあい、友情」懇親会

17日 アルビン・トフラー氏の記念講演

第十回商工会議所青年部全国大会は、平成二年十一月十六、十七日の両日、静岡県浜松市で開催される。

この記念すべき十回大会の主管は静岡県連で、大会事務局は浜松青年部が務める。過去九回の開催地は、順に宮崎、長崎、大分、水戸、智頭、福島、沖縄、山口、高知。

浜松青年部は昭和六三年十二月に九十七名で発足され、昭和六十二年九月に第八回関東ブロック連絡協議会を開催した経験を持つ。昨年の全国大会に続く準備委員会を発足させ、静岡県連の同名全員で大会準備を進めてきた。

大会は十一月十六日の式典と懇親会、翌十七日の記念講演の二つに大きく分けられるが、いずれも「二十世紀最後の十年の幕開けの年」にふさわしい記念すべき大会にしたいと、神谷竹彦（浜松青年部長）大会会長以下が熱い意気込みを示している。

十六日の式典では、活気溢れる浜松市とその地域性をアピールする意味で、音・光・色を巧みに織りかぜ多彩な様式を展開し、懇親会まで「さわやかミニコンサート」を開く。

懇親会は静岡県会員の陸海空エネルギーを傾注した場として「人、ふれあい、友情」をテーマに、大いに語り合う場所を用意する。そのため、会場となるホテルのアトリウム、ロビーを「お祭り広場」に変身させてムードを盛り上げる。アトリウムロビーは、参加者の個性に合わせて楽める「懇話の会」懇親会となる。

十七日は「記念講演」を呼びものとする。今、世界的に活躍しているアメリカの未来学者アルビン・トフラー氏が記念講演を行う。

同氏は一九七〇年に「未来への衝撃」、一九八〇年に「第三の波」の著作を著し、世界中に大きな衝撃を与えた。とくに第三の波は、われわれ青年部世代に大きな影響を与えた本である。同氏はまた、今秋十年ぶりに「パワーシフト」と題する著作を発表するそうである。

講演は、日時通訳で聴くことになるが、主催者側では「二十世紀最後の十年を知的で、エネルギッシュな十年にする、またとない機会」と、その意義を強調している。

前例のエクスカーションも多彩で、二コースによるゴルフコンペ、浜松を代表する施設見学ツアー、観光婦人の会による、ゆ知音の自由に楽しみ、勉強できるコースをセッティングしている。とくに地場産業ツアーは、浜松が誇る楽器、オートバイ、繊維（ファッション）の三大産業を中心に事業所見学を予定している。

懇親会の名所巡りは、浜松、静岡、清水、沼津、藤枝、掛川、浜松の各青年部がそれぞれ手分けして案内する。

浜松市の概要

▽人口＝五三万、三二〇人
▽世帯数＝一七、八八五世帯
▽面積＝二五〇・二九キロ平方メートル
▽事業者数＝三三、一八七事業所
▽工場数＝九、八二〇工場
▽事業所数当出荷額＝一兆七、〇八四億円
▽商店数＝九、八四一店
▽商業販売額＝三兆七、四二〇億円

記念講演の講師となるアルビン・トフラー氏

アルビン・トフラー（Alvin Toffler）氏は一九二八年、ニューヨーク大学卒業後、「フォーチュン」誌編集長を務め、コーネル大学客員教授を経て、ロックフェラー財団、AT&T顧問を務める。七〇年に大ベストセラーとなった「未来の衝撃」、八〇年には「第三の波」を発表し、進行中になるほど各分野に影響を与えた。

第10回全国大会スケジュール

11月16日（金）

AM7:30～PM2:15	全国大会懇親ゴルフコンペ
AM9:30～PM2:30	地場産業見学ツアー
PM2:30～PM4:30	受付・受付
PM4:30～PM6:30	式典
PM6:30～PM8:00	懇親会

11月17日（土）

AM10:00～AM12:30	記念講演
	エクスカーション（市内観光ツアー）

11月18日（日）

エクスカーション（市内観光ツアー）

11月19日（金）

PM2:30～PM4:00 第10回通常全国総会

感性とエネルギー 知的興奮の大会に

浜松大会会長
神谷竹彦

第十回商工会議所青年部全国大会を開催するに当たりまして、私達青年部は昨年準備委員会を発足させ、記念すべき大会にするためあらゆる準備をしてまいりました。

いよいよ平成二年十一月十六日（金）、十七日（土）の二日間、グランドホテル浜松で第十回商工会議所青年部全国大会「浜松大会」を開催いたします。

浜松の地域性を光分発揮しようと、音・光・色を使った式典を計画しております。参加される方々も、さわやかなミニコンサートで懇親までお楽しみいただくことになっています。

懇親会は全員の感性とエネルギーを傾注しあう場として、「人、ふれあい、友情」をテーマに大いに語り合います。

今、世界的に活躍中のアメリカの未来学者アルビン・トフラー氏を記念講演の講師に招きいたします。

アルビン・トフラー氏は一九七〇年「未来への衝撃」、一九八〇年「第三の波」を発刊した世界的に有名な未来学者です。今年は十年ぶりに「パワーシフト」を秋に発刊予定です。

全員でチャンスをつかんでいただき貴時通訳で聞いていただきます。「二十世紀最後の十年」を知的でエネルギッシュな十年にしていただくためのまたとない機会ですので是非みなさん聞いていただきたいと思います。

全国青年部の自己紹介

手さぐりも、着実に地域に根ざす

先進地視察等を計画

埼玉県・浦和青年部
部長　小久保崇价

わが浦和市は、埼玉県の県都として行政の中枢をなすとともに伸びゆく埼玉の中心として産業界、文化面においても大きな役割を果たしております。市街地(16㎢)以内に位置することもあり、人口の増加に伴い急速な発展をしてまいりましたが反面、種々な面で歪みが表面化し、その対策に苦慮していることも事実であります。

全国の、そして埼玉県内の先輩青年部諸兄の将来を考え、当面の企業と地域社会の発展を目指し研鑽受講活動を進めている中、わが青年部も本年3月、新旧に発足された新会員の会員を以って設立いたしました。設立4ヶ月を経過した現在会員も101名程に増員し、その全会員とともに各事業を推進するという主旨のもとに毎月例会を実施する一方、研修会、講演会および、視察会を通じて会員同志の親交の確認を図りながら、また、視察会員の皆さんの適切なご指導をいただきながら素晴らしい青年部になべく基礎づくりに邁進です。毎月の例会参加者も各回毎に増え、視察会等を通じて青年部の交流も活発に行われており、また青年部に対する要望等もその場で会員一人一人から聞くことが出来ますので、その都度役員会に取り上げて検討いたしております。今後は県内外の先進地視察研修会等も計画いたしております。一日も早く先輩青年部の皆様とともに同動出来る様頑張ってまいる所存です。

さて、昭和4年に埼玉県の県都としてわが浦和に県庁が置かれ約1世紀が経ちましたが、現在では埼玉県の主要プロジェクトである「埼玉中枢都市圏構想」の原動力となる"浦和はハートシティ"プランが策定され、21世紀に向けて中心市街地の都市基盤を整備し都心機能の集積を図るため、都心環状線や中心市街地へのアクセス線(青葉道路)の整備等が進められております。そして、高度情報化社会に対応したインテリジェントシティとして、まさにヒューマナイズされた新しい街として心にときめきをもたらす情報、文化の発信源機能を持つ魅惑的な都市として、緑と文化と伝統にあふれた人間性豊かな街づくりをめざしております。

浦和の街づくりに、地域社会の発展に私達商工会議所青年部がその中心的役割を果たして参らなければならないでしょう。

事業展開に2委員会

大阪府・枚田青年部
部長　田中　進

枚田商工会議所青年部は、平成元年12月4日、皆様の暖かいご支援、ご理解によりまして無事設立を果たしました。設立時60名であった会員数も現在では79名となり、青年部活動に励んでおります。

委員会は「総務」、「会員」、「広報」、「事業第1」および「事業第2」の3つを設けております。当青年部の目的としましては、企業研究についての相互研鑽活動、枚田商工会議所の活性化および地域社会への奉仕などを掲げており、これに沿って各委員会活動を行っております。「総務委員会」は総会、例会および役員会等の運営と当青年部規約細則の研究を行っております。「会員委員会」は会員の増強および会員相互の親睦、また「広報委員会」は年賀状の広報誌発行、広報掲示板設置および記録の作成、保存を主体に活動を展開しております。

「事業第1委員会」は組織基盤・経営体質向上を目的として、公共保育施設・スポーツ施設利用ガイドの作成発行、観察・研修旅行の企画起案および商工会議所の活性化促進事業推進、また「事業第2委員会」は全国青年部を目的とし、指導力研修会および視察研修会をそれぞれ年2回企画運営する別、「事業第1委員会」との共同事業として商工会議所活性化促進事業に取り組んでおります。平成2年度の予算額は8,000千円を計上しており、本年度より本格的な事業推進を行っている所存であります。

わが枚田市は大阪府の北部に位置し、南は大阪市、西は豊中市、北は箕面市、東は茨木市および摂津市に隣接しており、高速道路網や鉄道網も整備され、大阪市都心部より10km圏という交通利便な条件下にあります。

また、当市は昭和13年に約8万3千人の人口で市制が施行され、その後千里ニュータウン等の開発を経て、面積は26.5平方キロ、人口は34万8千人(昭和60年)となっています。昭和49年に力同神社会が建立に開始されたことは、皆様もご記憶がおありのことと思います。何分、設立後まだ日も浅く未熟な私どもですが、諸先輩方のご指導、ご理解を賜りたくここにお願い申しあげる次第でございます。また、お近くにお越しの際は、是非お気軽にお訪ねくださいますようお願い申しあげます。

新都市建設を目ざす

埼玉県・深谷青年部
会長　関根康男

私たちの住んでいる深谷市は、埼玉県の北部に位置し、首都圏、東京の中心から約70キロメートル圏内のところにあります。そして、交通は上越日本鉄道高崎線(深谷駅)があり、幹線道路では国道17号線が市の中心地を東西に走っております。

産業面では農、工、商の均衡のとれた発展を遂げておりますが、中でも工業面ではテレビ、ビデオ、アルミ関係工、印刷設備などを中心に生産が盛んで、第三工場団地まであります。一方、地場産業としては、紙上製品である土管と瓦があり、また、繊維製品では、綿入、子供服等の縫製が盛んで、昭和62年度の埼玉県下40市のうちの工業出荷額では、第3位の4,774億円にも達しております。また、農業面では葉物もの栽培のネギ、ホウレンソウ、キュウリなどの野菜やチューリップやゆり、きく等の花卉類苗が盛んで全国的にも有名であり、その収穫量1681,800トンに達し、生産高は埼玉県内第1位を占めております。産業面からみると、販売額は、昭和63年の調査では埼玉県下第14位で、その額は1,456億円であり、商業活動も盛んであると言えます。

深谷商工会議所は昭和49年に通商産業大臣の認可を受け活動を開始しましたが、地域経済発展の要として、街全体の指導的、中心的役割を果してきていると言えます。

現在、商工会議所は第6次実施の時期にきていると思われ、その組織率は平成2年度の会員増強運動の結果、会員の90%台を突破して53%に達し、その活動の状況は益々活発化の傾向を示していると言えます。

当青年部は、本年1月に会員の指示で部員募集活動を行いましたが、その結果、現在では29名の部員により運営されております。

青年部の当面の課題は、商工会議所活動への理解と参画、そして行政への関心を持つことであり、併せて街づくりの計画への協力のために調査、研究、勉強会を行い、青年の主張に広く理解を求め、会員を介して情報交換活動を行っていきたいと考えております。

終後に、先輩青年部および各界の皆様のご指導とご協力をお願いし、深谷商工会議所青年部の紹介に換えさせていただきます。

経営者訪問を計画

愛知県・岡崎青年部
会長　日比谷泰三

徳川家康公の出生地として知られる「城下町」岡崎市は、愛知県のほぼ中央に位置し、石製品、三河仏壇や繊維製品、花火、八丁味噌などの地場産業と、自動車産業、機械工業などがバランスよく発達した、人口300万人の水と緑に恵まれた西三河の中心都市です。

岡崎商工会議所は、岡崎市制を遡ること24年、明治23年に全国10番目、県下3番目の商工会議所として設立され、去る平成4年には、家康公生誕450年と併せ記念すべき創立100周年を迎えようとしています。

このような中、100周年に向けての組織強化の要味あいも含め、岡崎商工会議所青年部は、地域の活性化、国際化および新しい時代に対応できる人材の養成を主目的に、平成元年3月1日、35歳から50歳までの次代を担う若手経営者、後継者110名(2年4月1日現在127名　平均年齢36歳)が集い設立されました。初期は、会長はじめ会名の役員のもと、全会員が各委員会に配属されています。

委員会は年の活動目的に応じて総務、親交広報、企画研修、企画渉外、企画厚生、企画交流のもつが置かれ、それぞれなえられた活動内容の他、例会の出席(毎月の例会は各委員会の持ち廻り制)、意見交換、視察研究会、研修会、親睦会等について、各委員会が独自性を持って行っております。毎月または隔月で開催されるこの委員会活動が、青年部会員相互の交流・啓発、研鑽活動の中心的な場となっています。

何分にも当青年部は誕生してまだ1年を迎えたばかりで、初年度は手探りの中、会員手帳の作成、会員アンケート調査ならびに意識調査の実施、他青年部活動視察などを実施し、今年度に入りようやく広報紙「青年者だより」を発行することができました。今後は所定実施した会員アンケート調査結果等に基づき、会員の青年部に求めているものを積極的に取り入れ、会員相互の交流の場づくり、経営者として必要な資質を高めるための研修事業等、宿泊研修等の各種事業、その他地域活性化のためのイベント開催等、ひとつずつあせらず、じっくりと取り組み、岡崎の青年部の足場をしっかりと固めていきたいと思っています。

なお、2年後の平成4年、岡崎商工会議所創立100周年に際し、商工会議所青年部運営研究会の開催開催を計画していますので、皆様のご支援、ご協力をこの場をお借りしてお願い申しあげます。

部員の増強を図る

北海道・恵庭青年部
部長　前田和明

市制施行20周年という記念すべき年に、全国で49番目、道内では41番目の商工会議所の仲間になり、青年部も商工会議所青年部として、地域振興等に活動の第一歩を踏み始めたところです。当青年部は部員数25名(4月現在)、総務、研修、事業の3委員会で構成され、本年度は、部員の増強を図ることを最大の目標課題としております。

恵庭市は、恵まれた地理的条件や積極的な地域開発の推進により、道内で屈指の人口増加率を誇る未来性豊かな青年の街として、住みよい環境を進めております。さらに、当市は小樽、石狩湾から札幌、そして千歳、苫小牧に至る産業ベルト地帯の中央に位置し、開発する北海道の空の玄関千歳空港や海(苫小牧港や石狩湾新港)を結ぶ、優れた交通ネットワークを持っております。

恵庭市ではこうした地の利を活かし、国際的な視野点として積極的に産業開発の推進を図っております。現在では恵庭ハイコンプレックスセンター構想のもとに恵庭リサーチ・ビジネスパークや恵庭テクノパークなどが活動を開始、先端技術を駆使した研究や生産の拠点として、大きく飛躍しています。恵庭市は、また、豊かな流れと豊かな森林を保全し、人間のパワーと自然とが共存する新しい創性的な文化の創造フィールドとして、潤いのある住宅地として、豊富な工業用水に恵まれた産業の街として、また、新しい社会の動向と地域の急激な変化とそれに伴う消費者ニーズの多様化に対応した個性的で魅力ある街として、そして市民の交流と文化の発酵としての都市機能の重要な役割を担うコミュニティ・スペースとしての新しい街づくりを進めております。

最後に、全国の商工会議所青年部員の皆様のご健康とご繁栄を謹祈念申しあげまして、大会の挨拶に換えさせていただきます。

生き様を語り合う

愛知県・豊田青年部
部長　内藤明文

『おいでん、見りん、踊りまい。おいでん、見りん、踊らまーい。』アップテンポの盆踊りソングが流れます。駅前ロータリーから続く通りを埋め尽くした、人、人、人。こだまする歓声、ほとばしる汗。"豊田おいでん祭り"総踊りのエネルギーが爆発です。その中に今年も一般参加くにがやかでパワフルな踊りのハッピ姿の群れが見えます。私たち豊田商工会議所青年部です。

私たちが誇りを賞んでおります豊田市は、愛知県の中央部に位置し、現在38㎢の面積に約333万人もの人々が暮しています。市の中央を北から南へ矢作川が流れ、市最東端、市内最高峰の鳳来山から猿投山へと山々が連なり、まだあちこちに田園風景が広がって、大きく豊かな自然が包み込んでくれるような「水と緑の街」です。

何よりも世界有数の自動車産業の本拠地としてご存じの方も多いと思いますが、名鉄三河線豊田市駅の西側に東部地方別の"もぐら"を同開発のメインとして進え、また、南側も"ニチイ"をオーナントとしての再開発が進められ、個性豊を打ち出すそれぞれの商店街とともにいま、"車の街"工業都市豊田市は"商業の街"としても大きく変貌を遂げつつあります。

私たち豊田商工会議所青年部も歩みを始めて5年目を迎えました。総務・組織・広報・研修・教育・事業の4委員会が、役員会の下に広報紙「青年」の発行、それぞれの生き様を語る「私をかこう会」、「海外視察研修」、「豊田おいでん祭り」「商工フェア」への参加など、93名のメンバー各々の個性を持ち寄っての事業を企画し、実施しています。そろそろ何とか強い立ちができるかなといったところですが、部員相互の交流も進み、互いが胸を張って話せる雰囲気が生れてきて、これを大切に育てていきたいと考えています。20代から40代までのいろいろな職種、幅広い年齢層を持つ青年部ならではの個性ある活動から、そのアイデンティティを造りあげ、地域に根ざした活動を通じて私たち青年部の存在感を周囲にアピールしていかなければならないと思います。そのために、何よりも大事にしていきたいのは、青年部らしい何物にも制約を受けない自由な発想、旺盛な好奇心、そしてパワーあふれる行動力です。

次代の商工会議所を担う者、それが、我々商工会議所青年部の使命ではないでしょうか。

全国青年部のイベント紹介

地域活性化、イベントの担い手に

要性を強く感じ、市民の手により市民が誇る「市民の森」、そして全国でも有数の桜の名所として「桜の園」にすべく、市とともに「FUKUIさくらルネッサンス」事業を開始しました。

事業内容　福井市の中心に位置する足羽三山（足羽山、鬼越山、八幡山）にソメイヨシノ・ヤマザクラ等・桜3,000本を植樹した。

○市民植樹祭……平成元年11月19日（日）

○桜のご案内……平成2年4月8日（日）

青年部名：新潟県・村上

会　長　名：山ノ井　一　夫

行　事　名：村上商工会議所創立40周年記念事業
第3回市民青空バザール
'90ミスMURAKAMIイメージガールコンテスト

日　　時：平成2年5月27日（日）

行事内容：イトヤド会館イベント広場において、村上商工会議所青年部主催により村上商工会議所創立40周年記念事業の一環として第3回市民青空バザールが開催されました。当日は、雲一つない好天に恵まれ、およそ1万5千人の観衆で賑わいました。

今回は特別企画として'90ミス村上イメージガールコンテストが行われ、18名の出場者の中から、ミス村上1名と準ミス村上2名が、会議、市長そして当日の来場者58名の審査により選ばれました。

その他、小学生以下の「パンダさんとのジャンケン大会」、村上おやこ劇場の「マジックショー」、抽選引き大会、福袋などが当たる抽選会などが行われました。

バザール出店は41店舗で例年並みでしたが、晴天に恵まれたことやミスコンテストがあったことなどで午前中に完売になった店もあり、大盛況でした。

青年部では、この市民青空バザールを今後も継続、実行して行きたいと決意を新たにしています。

青年部会：青森県・青森

部会長名：中　村　公　英

行　事　名：雲雀みなとまつり'90

日　　時：平成2年7月28日(土)～29日(日)

行事内容：青森の活性化のために、海から生まれたこの町にもう一度命を取り戻そうを合い言葉に「雲雀みなとまつり'90」を青年部が主催。

早朝から夜夜まで丸2日間、みなとまつり会場に3万人を超える入場者を集めた。

イベントの中心は、陸上では「郷愁」の上演、海上では「ジェットスキーレース」をはじめとするマリンスポーツと、各種イベントが多彩に展開された。

郷愁は、中世青森のうとう・やすかたを舞台にした能「うとう」が上演された。古来各地で「うとう」は上演されてきたが、本来演じられるべき地で遂に実現できたのは夢のようである。

この他ミスコンパースとの写真撮影会、コズモ・ナニーのシンセサイザーとシーザー光線によるサンセットコンサート。ねぶた運行などが行われ、会場を熱狂に包んだ。

青年部名：栃木県・真岡

会　長　名：石　岡　　博

行　事　名：真岡線にSLを走らせよう

日　　時：平成2年4月

行事内容：真岡は、NHKの大河ドラマ「春日局」の夫君、稲葉正成公の終焉の地であることから、市では昨年、テレビ放映に便乗して知名度も希薄な「もおか」を全国的にPRしようと、約1億円を投じて「春日局ドラマ館」や「稲葉正成館」を開設した。その結果、全国各地から延べ15万人の観光客が訪れ成功のうちに終了したが、しかしこのビッグイベントも一過性のものである。

このため、当青年部では「春日局」に続き、平成2年後の重点事業に「真岡線沿線の観光開発と地域活性化」に取り組むことを決め、特別委員会を設置した。まず、委員会の仕事は「真岡線に走らせるSL」を探すことにあり現在、市内の鉄道ファンやSLの愛好者たちが中心になって結成した「真岡線にSLを走らせる会（会員250名）」とともに、国内はもとより遠くは海を越えて台湾、中国まで足を伸ばしSLの情報収集に奔走している。最終的にはSLを購入して、定期的に走らせる構想である。

真岡線は、茨城県下館駅から栃木のまち益子を通り、終点茂木駅までの42kmを約2時間で単線で、赤字ローカル線ということで一時は廃線の危機に見舞われたが、世間の強い要望で63年4月に第3セクターによる真岡鐵道に生まれ変わり、現在通勤通学の足としてレールバスが走っている。かつてC－12型の蒸気機関車が走っていたが、昭和45年を最後にその姿を消した。

「SLを走らせることは夢を実現するだけでなく、街づくりのきっかけにもなる」という訴えに、沿線の3商工会青年部も賛同。1市3町議会共同体を互いに協調し、地域活性化に向けて協力することで合意した。また、この事業を成功させるには地域住民の協力が必要であるため、機運の気運を盛り上げるための写真展や映画の上映会等のイベントも企画している。

峠上の田園の中、煙をたなびかせて走る蒸気機関車の雄姿を夢が見えるという夢にかきたてられ、"SLの走る街一真岡"を新しい観光資源にしようと、わが青年部は動き出した。

青年部名：福井県・福井

会　長　名：林　　治　男

行　事　名：FUKUIさくらルネッサンス

日　　時：平成2年秋

行事内容：福井商工会議所青年部では、これまで「市民の広場」事業を通じ、福井市民のQ自然と親しむ場、②人々の集う場、③ホスピタリティーの場として、都市の中の緑の空間として貴重な存在である足羽三山の開発、整備の必要性を訴え「市民の憩う森」づくりを提案してまいりました。

現在、足羽山、足羽川堤防を中心として福井市の桜の名所が形成されております。これらの桜は、戦災により焦土と化した福井市の街並みの復興とともに緑を蘇らせる運動として福井商工会議所と福井観光協会が主唱し、市民の協賛により植えられたものです。しかし、現在老朽化が進んでおり、寿命もあと数年と言われております。

そこで、平成元年度、市制100周年を契機に、福井市のシンボル的存在であり緑豊かな足羽三山を、整備する必

青年部名：佐賀県・鹿島

会　長　名：石　橋　英　司

行　事　名：「今、鹿島は燃えている！」WE LOVE ガタリンピック

日　　時：平成2年5月5日（土）

行事内容：昭和50年、新幹線や高速道路と言った高速交通網体系からオレイに外れた「陸の孤島」鹿島市の若者達の中に、「このままでは愛するふるさとが衰退になる！」と言う機運が生まれて来ました。彼達は「ただ手をこまねいて（鹿島沈没）の日を見るより、いま、自分達の出来る最大限の努力をすべきだ！」と立ち上がりました。

翌昭和60年3月、我々が最も愛着心のある（有明海）に「海洋スポーツ公園」が完成しました。「こけら落とし我々の手で企画しよう！」との提案があり検討を始めましたが、例会では名案が浮かばず投票の「呑みにケーション」の場に議論は持ち越しました。飲みながら議論沸騰の中、誰かが「海の上のオリンピックがよいコト！」と言ったのがきっかけとなり、天下の「電通」の宣伝マンが絶賛し「ガタリンピック」と言う名前が誕生したのです。その時、我々には日本一（ユニークなイベント）とマスコミにはもとより、全国津々浦々の人々に愛されるイベント『ガタリンピック』が産お声を上げたとは想像もつきませんでした。

今年開かれた、第6回大会では、鹿島市の人口の1.5倍である3万人もの観客数を記録しました。マスコミもNHK「独占スポーツ情報」「ズームイン朝」、NHK衛星第1夜必等、今までに鹿島とは縁遠いメジャーな番組がこの世にも不可思議なイベントを取り上げてくれました。

取材の時の多さに、窓口の観光課も嬉しい悲鳴を上げている昨今です。さらに、このイベントにあわせて、約300人南米の外国人ホームステイも行っております。

このイベントは我々に沢山のことを教えてくれましたが、その結たるものは（心の豊かさ）と（自給力の尊さ）でした。「何もないノ」と言うのは簡単ですが、日本一回舎の郷の、そのまた田舎の鹿島市民が「何もないノ」と言う言一つ言わずに、愛着心のある大自然を有効に利用し、日本の将来の娯楽とも言えるイベントを創り出したのです。もし鹿島市に色々と便利な物があったなら、逆にこのような奇想天外な発想は生まれなかったのではないでしょうか。

ガタリンピックのメダリストは、いまや鹿島のスターなのだ

平成2年度(11月～3月)スケジュール

11月	10日～17日 第16回全国大会 ［浜松］	10日 第17回通常会員総会 ［浜松］	10日 第47回役員会等 ［浜松］	・機関紙「翔生」（第9号）発行
12月			4日 第48回役員会等 ［東京］	・平成3年度役員との懇談会　4日 ［東京］ ・平成3年度役員第1回打ち合わせ会および平成3年度正副会長第1回会議 5日　［東京］
1月			18日 第49回役員会等 ［松江］	・平成3年度役員第2回打ち合わせ会 18日　［松江］ ・平成3年度正副会長第2回会議 20日　［松江］
2月		7日～8日 第8回中央研究会 ［東京］ 8日 第14回会員総会 ［東京］	7日 第50回役員会等 ［東京］	・平成3年度正副会長第3回会議 7日　［東京］ ・平成3年度役員第3回打ち合わせ会 8日　［東京］
3月				・機関紙「翔生」（第10号）発行 1日

青年部名：島根県・松江

会　長　名：泉　　康　吉

行　事　名：水郷祭

日　　時：平成2年8月4日（土）～8月5日（日）

行事内容：関企議所は「土曜する水郷祭」に協力し、水郷の市に出店する。かき氷販売、コカコーラ販売、バザーをし、会員相互の連携を取りながら、親睦を深める。

青年部名：秋田県・大館

会　長　名：伊　東　良　和

行　事　名：大館大文字まつり

日　　時：平成2年8月16日（木）

行事内容：北国の夏まつりは秋のほか赤杜です。毎年8月16日には市の目ぬき通りである大町中央通りはまつり一色に。歩行者天国となった通りを浴衣がけの人びとが行き交う。美ましい「盆子踊」、そして陽が西に傾く頃に、手ぶりも賑やかな「一万人踊り」……。やがて夜8時頃をきいて空に浮かぶ「大」の文字。雄鹿山の山肌をこがす大文字焼です。

全国青年部の自己紹介

地域振興に期待高まる

政界人の講演例会

福岡県・久留米青年部
会長 久間博光

赤と緑の人間都市・久留米は、東には筑紫平野、西には耳納山脈が連なり、南には伊勢神宮として筑後川の流れが悠々の流にそそぐ筑紫平野で豊かな田園都市であり、市域21万2千の地で町として、また福岡県南の中核都市として、福岡市では人口125万4千人を数え、有史100年を迎えるに至っております。地場産業としては、久留米ガすり、久留米ゴムつぶし、久留米タンクと個性があります。現在で世界メーカーの行革化後、アサヒコーポレーション、そしてブリヂストンタイヤのゴム工場があり、3社で全国シェアの7割を占めるといわれるだけに、ゴムと久留米の結びつきも深いものがあります。そんな中で平成元年度が久留米商工会議所創立100周年に当たったため、その記念事業の一つとして青年部が設立されました。

久留米市商工業の活性を図りつつ青年経済人の社会参加の場として、我々青年部は次の目的を掲げております。

1. 久留米商工業の発展を通じ地域社会の発展に尽す
2. 久留米商工会議所の事業活動の推進に参与する
3. 経営者としての人格教養および経営能力を高める
4. 会員相互の親睦・親睦を図る

今年度は"地域社会および経済の現状を認識し明日の久留米を考えよう"のテーマを掲げ、会員間の親睦と団結、自己の研鑽および地場産業との交流を深めるために下記の重点事項を掲げ、事業を推進しております。

1. 例会、懇親会を通じ会員間の親睦を深める
2. 経営者としての人格、教養および経営能力を高めるための研修会を開催する
3. 対外交流を活発化し、近隣地域との友好関係を深める
4. 創立1周年記念事業を開催し、会員の団結と親睦を図る

具体的には、まず我々が住んでいる久留米を今一度見直し、再認識し、それから何をどうすべきかを考え実行する。そのためには市の各部との懇談会あるいは国際的レベルから見た久留米を語ってもらうべく、講演講演、市長、助役による講演所会を開催するなど目的達成に向けて、全員一致協力して事業を推進しております。

現在会員数206名、役員30名。

玉島まつりを主管

岡山県・玉島青年部
事務局 幡司謙介

私たちの町玉島は、岡山県の南西部に位置し、1千年以上の歴史を持ち、広く瀬戸内海の古戦場となりました。また、潮流日本三大海峡により、すぐれた港を備え、さらに大洋・高梁川の恵みにより豊中地区商業の中心として栄えてきました。

しかし、現在は、昭和43年倉敷・児島・玉島の三市合併によりてきあがった倉敷市の中でも、特に立ち遅れた自立の地区となってしまいました。私たちの青年部は衰退ともおそれその活性化のため、様々な事業に取り組んでまいりました。特に、夏の地域の祭りである玉島まつりにおいては、我々の存在はなくてはならないものとなってきていると自負しています。

郊外店・大型店等の出店により、かつての中心商店街の衰退は著しく、その力の復伸化とともに、祭の盛り上がりの薄れてきた玉島まつりに青年部設立当時から参加チャンピオン大会等の協賛を図ろう、現在では祭の会場のほとんどが青年部の手で行われ、祭の盛り上がりも年々と低しきを保り居しつつあります。しかし、おむしゃらに取り組んできた祭も地域活性化の位置づけ・テーマづくりを新店としなければならない点も多く、今後の活動の課題となっています。

その他地域の発展した先人を顕彰する活動（真備記念館設立発起会・菅原道真遺の一十徳山地を愛する会等）、かつての中心商店街の活性化事業（ふるさとふれあい商店街・大正ロマンの街通り商等）、祭の機会誌に保存を中心とした郷土・地域の資料等の中心となりたい。あるいは組合事業として取り組んだり、我々青年部も地元では頼づくりの中心となりつつあります。

設立3周年を迎える当青年部は、会員の名を知り、交流（ていきり）を図りと、家族ボーリング大会・ゴルフコンペ等を催すなど、活動を高め活性調査研究等で自己研鑽を深め、地域の発展に役立ちべく現在奮闘中であります。

動ける組織づくり

鹿児島県・川内青年部
部長 外園俊明

わが町川内市は、鹿児島県の北西部に位置し、面積は265平方キロ、人口7万2千人、鹿児島県では3番目の人口規模にあります。

また、川内市は、九州で2番目の長さを誇る1級河川、川内川の下流付近に位置しており、市周辺を川内川が貫流し、その河口をはさむように原子力発電所と火力発電所があります。市内には、かつて薩摩一の港とよばれた風格を残すニニギノミコトを祭る新田神社、鹿児島県が200年以上の歴史を誇る祭り、川内大綱引きが心として栄え、国の重要文化財として指定されております。

当青年部は昭和60年2月に設立、現在の会員は38人です。青年部活動は勉強の場ということで、例会のほとんどは講師所会を中心に行っていますが、対外的事業は少ないですが、その中で毎年4月の第1日曜日に行われる、武神温泉祭まつりの「神功皇后行列」を担当しています。

武神温泉は「肥前風土記」にも記載されており、神功皇后が三韓遠征からの帰路の途中武神に立ち寄られ、温泉を見つけられたと伝えられております。この神功皇后が武神に来られる様子を再現したのが「神功皇后行列」であり、武神の春まつりでは二大行列行事を誇りとします。私達青年部がスタッフとなり、当夜祭での「ミス姫の会主」が開始後前に、武神台長が武内宿禰に扮装し、姫見行列を先頭に神輿、女官、兵士、山車、そして山車の引き手と総勢500名による壮観の姫巻の波大に繰り広げられます。

また、青年4月無職行が「神の国熊襲祭」の一環として実施した。全国の「日本・自然祭の調査」によると、武神市にある3本の大楠の内の2本が、全国3位と6位にランクされました。樹齢3,000年の大楠が残っていることに伴い、自然環境と歴史的遺産を考え直そうと、武神市と実施部推進村の共催による「日本の故ノンボリウム」が10月に開催されます。私達青年部も実行委員会に参加され、全国より3,000名の参加が予想されるシンポジウムの準備等に日々奮闘しております。

まだ設立3年目ということで、思うように活動が出来ていませんが、今後は町づくり等にも積極的に参画して行きたいと思います。

神功皇后行列を担当

佐賀県・武雄青年部
部長 緒方正則

武雄市（旧郡殿市）は、佐賀県の北西部に位置し、緑の山々と四季の花につつまれた、のどかな情緒あふれる観光と文化と温泉の町です。武雄のシンボルは、歴史城を思わせる市役所と市役所であります。この機門は、東京駅および日本銀行の設計で有名な辰野金吾博士の設計で、訪る一度も飽きない美しい建物で、佐賀県の重要文化財に指定されております。

当青年部は昭和60年2月に設立、現在の会員は38人です。青年部活動は勉強の場ということで、例会のほとんどは講師所会を中心に行っていますが、対外的事業は少ないですが、その中で毎年4月の第1日曜日に行われる、武雄温泉春まつりの「神功皇后行列」を担当しています。

太古川、千鳥ヶ淵、ゆかりの月見橋、武雄温泉、武雄神社、武雄市役所、武雄温泉、武雄市役所、武雄温泉、武雄市役所、武雄温泉

海外研修特集

商青連42名の経済視察報告

ASEAN4カ国訪問

中小企業の海外進出の可能性を深る

燃えたつきっかけと友情の輪が生れた！

様々な体験、人との出会いから参加した42名の青年経済人は大きな成果を持ってそれぞれの地へ帰っていった。このメンバーの中から次々と経済進出、人的交流を実現していく経済人が出てくる予感を感じさせるツアーであったと感じた。

訪れた国で知ったアジアの現状、経営者の苦労、そして夢、意識から国際交流を実現しようと考えている42名の団員は出会った現地の経営者の生の声に何かを感じたはずである。

バンコク（タイ）

十三世紀に建国以来、今日まで独立を維持してきた東南アジアで唯一の国、立憲君主国で元首は国王である。

タイ訪問の目的は私達商青連の仲間である京田義之氏（兵庫県・高砂青年部）がパートナーとなっているBIGTEKAI　BNGを訪れることにある。京田氏がどういうきっかけで誘れたのか、バンコク出発を決意した訪問の興味深いものがあった。タイは今で、高度経済成長期の真只中、社会資本の整備も追いつかないほどの急成長を遂げていた。

シンガポール

人口二六〇万人の小さな国、シンガポール。大きさはほぼ淡路島と同じである。このシンガポールが今、「アジアのセンター」としての役割を果たそうとしている。

この国を訪問した目的はヤオハンがシンガポール政府とタイアップして建設したIMM（国際商業センター）の見学とヤオハンの出張社員（IMM社員）との出会いであった。一部オープンとはいえ、そのねらいとする戦略を聞くとシンガポールという国のアジアでのポジションは世界へ向けてますます重要になりつつあると感じた。

ジャカルタ（インドネシア）

人口一億六六〇〇万人、面積は日本の五・二倍、大小一三、七〇〇の島々から成る資源の宝庫、インドネシア。オランダの植民地から一九四九年に独立、アセアンの中で最も資源にめぐまれながら経済成長の遅れている国である。ジャカルタ訪問の目的は、一億の大金持ちと別の低所得者のいるジャカルタに初めて高級デパートを出店した日本のそごう社長の英断と決断力に感動した日本人が共に校内を参観している実践機関の工場見学であった。

また、インドネシアの独立運動に参加し、土着の人となって活躍されている方々の生の声を聞くことができたことは、貴重な体験であった。

ジャカルタのSOGOをバックに、商青連視察団の元気な顔が並ぶ

今すすめ、インドネシア政府から表彰を受けた元日本兵・羽井佐治さんとの出会いであった。

クアラルンプール（マレイシア）

最後の訪問地、クアラルンプールはマハティール首相のもと、強力な経済開発政策が進められている「ルック・イースト政策」を展開し、日本、韓国を見習えと盛んに留学生を日本に送りこんだり、日本企業誘致を進めている。一九八五年、中曽根総理大臣（当時）とマハティール首相とのトップ会談で国内唯一の外国人創工会議所（JACTIM）が創設された。

JACTIMのもう目的は日系会員の投資環境の改善にある。クアラルンプール訪問の目的はこのJACTIMのメインバーである方々の経営者と出会うこと、そして内田洋行の工場見学であった。

みんなで歌った青年部の歌

東南アジア経済視察団の日程

平成二年七月五日(木)～十二日(木)

「アジア経済圏」を実感

団長・商青連会長　小林幹生

アジアが大きく変化し、また世界から注目を集めつつあります。三十一世紀はアジアの時代」と言われはじめております。日本だけが突出しているだけでなく、タイ、シンガポール、インドネシア、マレイシアなどアセアン諸国も次の主役の座をねらってめざましい成長を遂げつつあります。

平成二年度商青連のスローガン「翔け世界へ新しい時代の開拓者」は、まさに明日をみつめたスローガンです。全国最大の青年経済団体である商青連に所属する私達日本がアジアに目を向け、正しくアジアを理解し経済活動を行うことの重要性を認識すべく、この経済視察団を企画いたしました。全国から42名の参加をいただき大変充実した視察となり、各国において熱烈な歓迎をうけました。

進出日系企業の方々と懇談お会いして各国の経済・経営実態、システムの現状・問題点等をお聞きし、中小企業の海外進出の厳しさ、ロマンあふれる話をうかがい感激する場面がいくつもありました。参加者の中には具体的に進出を考えた人、検討を考えた人など、青年経済人らしい視点で東南アジアを実際に歩いてみたと感じました。

この経済視察団は、現地の日本人商工会議所の皆様の二年力にたち、スムーズに視察が終了できたことに、衷心より厚く感謝申し上げる次第です。

企業進出にはコンセプトを

五味隆仁（東京青年部）

「東南アジアへ進出しようとする企業は、自分の企業の利益のためだけに投資をするという考え方ではいけない。進出した国、地域に対して、また、そこで生活をしている人達に対しての様な投資をし、どの様な利益還元を行っていくのかという基本コンセプトをしっかりと持ち設備しておく必要がある」

今回の視察研修でお社員、またお話しをうかがった方々から私自身が得た「投資」という言葉の意義づけではなかったかと考えます。

その基本をふまえしっかりと決まっていれば進出する国によって進出方法は違いますが、方法はたくさんあり企業が進出できる割り振りは成功すると思います。

視察研修という日本の国内で行う研修会と違い、同々国のそれぞれの人々と接しながら、参加されている皆様と交流させていただいたことは、今後の私にとりまして大きな財産となりました。

心で感じる日本人を感じた

岩佐誠三（小野田青年部）

強行日程での視察であったが、地元料理で汗と熱力が吹き出し有意義な旅となった。

チャオ・プラヤ川の流れのような緩やかとしているが歩を進めるタイ。金色に輝くパゴダの尖塔と色彩豊かな寺院に仏教の深さを感じる。昼朝ランチに寄って水上マーケットを見物し、タイ人の生活ぶりを見聞した。

多民族でマーライオンが、海上を眺めて歩行するシンガポール。木々の緑に恵まれ、清潔も広く、世界有数の国際であり美しい都市であるが、インスタント・アジア、の顔がある。ヤオハングループが建設したIMMでは時期が不足し、再度ビジネスを目的として訪れたいものだ。

インドネシアの首都として、オランダ統治のなごりをとどめるジャカルタでは、そこうデパートを見学し、自分の眼で知りたい感じたいという自衛意識がはっきりした人達の集まりであり、また、全国でそれぞれしっかりした経営観を持った同年代の人達であったと自分を大いに感じたひとたとおもいます。

民間の研修だけでなく真夜中までに及ぶ飲みニケーションでは、本当に熱くの心からの友達を得ることが出来ました。貴重はかなりハードなものでしたが、そういう時にこそ本音が出るものです。

自分自身の勉強として今回の様な同じ世代、同じ立場（経営人として）の人達の厳しい目のなかで、はたしてどうだったのかとはずかしい思いです。今後もこの良き仲間達とともに自分を成長させていきたい気持で一杯です。

本音が出た飲みニケーション

神谷竹彦（浦和青年部）

国内外を問わず、いろいろな人達と旅行をすることの楽しさ、有意義さを不同もつくづく感じた旅です。特に今度は「海の様に」中小企業のオーロード」東南アジアを自分の目で、自分の眼で知りたい感じたいという自衛意識がはっきりした人達の集まりであり、また、全国でそれぞれしっかりした経営観を持った同年代の人達であったと自分を大いに感じたひとたとおもいます。

東南アジアにおける日本経済の進出は目覚しいものがあるが、資本投下、技術提携もよいが、現地の人々の生活に溶けこみ、その地に根をはった経済進出なのか。四々国を巡って日本人的文化のにおいがしなかったことで不安に思った。もし日本が金持ちの国でなかったら日本人は何をもって東南アジアに進出できるのか。中国系の人々のようにしたたかに東南アジア諸国のリーダーになれるのか。

ジャカルタのお弁氏（独立戦争に参加した日本兵）の話を聞き、「何で涙ぐんで感じる」日本人を感じた。

東南アジア経済視察団の日程

平成二年七月五日(木)～十二日(木)

青年部会員の主張

一人の百歩より百人の一歩
例会は真の友人をつくる場

美唄青年部　長岡正勝

このたび、機関紙の編集委員会より「翔生」への寄稿を依頼されましたことは真にありがたく思っています。

「翔生」は全国青年部会の青年部活動の活発化を図り、各地青年部の情報交換を図るとともに、機関紙活動を全国の会員に伝達することを目的としておりますので、私は北海道・美唄の青年部がどの様な活動をしたか、活動を行ってきたかを報告し、会員諸君の何らかの参考になれば幸いと思うのであります。

美唄青年部
長岡正勝

今から七年前、昭和五十九年五月、十四人の設立準備委員の次の様な設立趣意書を青年有志に出されました。

「低迷する経済状勢の中にあって、我々中小企業の使命は、地域社会の発展に貢献し、社会生活に密着した諸事業展開の要素は大きなものがあります。この時こそ、我々青年の柔軟な行動力と強い活力を個性としなければなりません。

若者に社会と呼ばれる今日、あらゆる分野において、先輩の人々が練達した経験と豊富な知識をもって第一線で活躍されていることは、真に心強く、心から敬意を表するものであります。

しかし、その反面、青年層の意思の表現の場、話題の機会が狭められていることも否定できません。

新しい社会、新しい時代に対応するためには、良い情報と、それによってもたらされるアイデアや行動力が期待されております。

経営環境が益々厳しくなる当市において、企業の安定を願い、「明るく、住みよい」街づくりのため、青年層が広い視野に立って、お互いの交流を深め、情報の収集に努め、潜在する能力を最大限に発揮するとともに、商工会議所事業の運営に参与することは勿論、美唄市経済発展への「新しい風」となるべく美唄商工会議所青年部を結成するものであります。

こんな内容でした。当時の予想を大きくうわまわる六十八名のメンバー、過半は青年部員となり、実現に新しい風が吹きはじめたのであります。

今思えば、各地域の青年部は、設立に際っての苦労、運営方法、活動内容については多少の差はあるものの、青年部の「創造」、「開拓」の精神が時を経るにつれ感じるものであります。

美唄商工会議所の活性化は、日本経済の動向と大きく左右されます。昨日まで無関心でいたプログラムは今日では活用となり、事業と経営、成長と資金、開発と安全、etc……。相互することが理解に結みあっている この時代、企業経営を巡る環境は益々厳しくなっていくでしょう。

この環境は、時を待っては好転するのでしょうか、残念ながら自らを変化させることぬきにして時流には乗っていかないと我に残されておかなければならないのです。

自らの変化をどうするか、これが青年部の活動課題を推進するゆえんであります。会員諸君が持っている知恵を出し合い、他企業の良い点をヒントに、自分の企業にあてはめることです。それを実行してみることです。しかも学会が同時に行動を起すべきであります。

一人の百歩より百人の一歩の方がどんなにか強いパワーとなり、地域の活性化につながるかは計り知れません。勿論、まず始めようとはありませんか。

最後になりましたが、例会に出席する心構えについて、次の様な言葉を基礎としております。

「例会は硬いあった友人達のためのものではない、意見交換する真の友人をつくる場にしなければ…」

私も残された期間、今力を出し青年部活動に参画していきたいと思っています。

「青年団体懇談会」を設立
例会で自己研鑽の体験発表

教育青年部　河瀬一治

私達の教育部は、設立後間もない昭和五十四年に設立されて、今年で十一年目を迎えました。地域経済の健全な育成に努める商工会議所の一翼を担うものとして、基本方針のもとに研修会、イベント等様々な活動を実施し、親睦を深め活性化をはかるべく現在に至っております。

愛媛市は人口六万七千の地方都市であり、古くから農村として、また交通の要所として発展してきたところであり、その影響があってか人口の割りには事業所は多く、千二百社以上が会議所に加入しています。しかし、青年部会員は十名と中堅機で、会員増強も課題の一つとなっております。

活動としては会員事業所の表敬に見合った「表敬訪問」、自己研鑽につながる「体験発表」等を月一回の例会で行っていますし、懇談例会や定時総会では、講師の先生を招き講演会を開催しています。また、親睦事業の強力、つるの祭りの総務事業、会員相互の親睦を図るためにゴルフ会や新年会等を行っております。しかしながら、会員の減少や組織率に対する出席率が低く、もっと魅力ある青年部活動を考えていかねばならないと考えております。

そのような中、昨年、教育青年部内のメンバー相談し、他の二つの青年団体をお誘いして四団体で「青年団体懇談会」を設立しました。定期的な会合やスポーツを通しての親睦会の中で各団体の悩みや今後の運営、これからの町づくり等について話し合い進めているところです。

いろいろな問題を解決したい、相手の話を聞き自分の考えをぶつける中で、自己と自分が研ぎ澄まされた思いで、実践している今日この頃です。

個性の強い経営者ほど成功
世代交代をビジネスチャンスに！
――青年経営者5,000人調査から――

法政大学経営学部教授　川喜多　喬

いま、戦後、復興期から高度成長期にかけて急増した中小企業の世代交代期を迎えている。ちょうど、ベビーブーム世代がいっせいに四十歳を超え、その親が七十歳を超え始めていることが大きな契機になっている。

しかし世代交代は、家族内の後継者によって行われているわけではない。すきま市場・衰退産業をニッチビジネスとして開拓する新興業者で、成長する企業を開拓人として活躍して頭角を持った管理職層も、その一翼を担っている。

ところで、日本商工会議所では平成元年度において、全国商工会議所青年部連合会に加盟の各地青年部に所属する青年経営者（新業者および後継者）を対象に、経営姿勢等についてのアンケート調査を行った。四千九百七十人から回答があったが、その結果わかったことを要約しよう。

①創業者に比べ、家族内後継者はより伝統的な業種に属し、同じ年齢層でも、創業者の方が高い経営トップとしての実権を握って行動しているのに、完全に自立した経営者としての機能を行使している者がより少ない。創業には満足するが経営者としての多面的な苦労に無縁な経験と、家族内後継者の経験と合わせた世代交代の型通の必要である。うらやましい限りに感じてしまう危険がある。

②家族内後継者のうち、後継に当たって「ぜひ継ぎたかった」としている者は二十四％だけである。逆により早く後継を自覚した者ほど、現在の経営状況もよい。それまでの計画も自覚的・体系的であるということも考えるとき、青年経営者は自分の後継と合わせ、既に自分の次の後継予定者の育成の問題を考え始めるべきである。

③高年代の高齢化による健康の衰えや死去が最大の後継阻害要因である。経営トップが高年齢層であれば、かえって高齢者が多い。後継者以降の後継阻害の課題として、六十五歳までが「自分の経営能力」を考えている。問題は、経営者を含む家族・事業という家業の後継事業として、この「経営能力」の陶冶を図ってきたであろう。ゆえ例外は結局はないとはいえない。また家業を超えて経営者も、一般従業員の管理に関心を寄せている。経営トップが高年齢に達するまで「人材育成型経営」とする内容の主張だ。

④日ごろがりやで、創守的ある者は新人類で仕事一筋、ワンマン型の青年経営者が、いい経営状況の企業には多い。つまり経営の成功は青年経営者の個性に負うところが大きい。個性だけで成功するわけではないが、自分に欠けていることがあればそれを補うことを考えてよい。特に学者肌・評論家タイプ、職人肌・冒険精神に乏しい一匹・孤狼タイプ、合議型経営者とは言うものの決断力に乏しい経営者が問題だ。

⑤企画力・アイデア、計画性、体力等では青年経営者の自信は高いものの、人脈の豊かさ、ハングリー精神、感覚や感性については先代、あるいは同業他社より劣るとしている。なるほど人脈については、地域や業界の活動に熱心な青年経営者は経営もよく、また向上している。商工会議所についても、青年部活動に熱心な者ほど評価を高くしている。こういうネットワーキング活動を、若びの場とのみ考える経営者はだめだが、仕事一筋の活動で大いに利用する経営者は伸びると言えよう。

⑥青年経営者には、基本的な経営法に関わること経営課題として認識する傾向が強い。家族内後継者の場合、経営者が30歳前後も実あるとの意識に、思い切った経営転換、新事業、新業種、事業転換、独自など一で、経営を一気に革新するチャンスがあると言えよう。しかしそのためには、中小企業の青年経営者の勉強は、経理の経営技法だけではなく、時代を読み切るスケールの大きいものへと広がることが必要になっているわけである。経営者は、冒険を伴うものハングリー精神でその先頭に立っている。青年管理職も経営組織の近代化を担う。家族内後継者だけで閉じまず、こういう本格な場が時代を学ぶ有効な場が重要だ。

⑦さらに青年経営者には、立地条件を含め地域経済の変化に関する敏感が強い。創守経営をいくら徹底しても、地域の経営力や地域集合の集積効果が減少し薄れていくとすれば大問題である。青年経営者の結束活動と地域興活動との連結が重要であろう。しかし狭い地域だけを見ていて、地域振興の方向を定める見通しが立つわけでもない。地域を見据えるためにも、国際社会の動向をも視野に入れるべきだ。

⑧いくらそうなることを言っても、自分の力で経営をのばすことができない経営者は、淘汰されてはならない。明の城光で、明が強いと言葉と問題で、青年部内の序列が形づくられるとすればもっての他であろう。青年こそ、自分の力だけで勝負するという自負心を持つべきである。この点から、本稿を読む人々の相乗効果を青年部活動は大切にすべきで、しばしば見られるような別代感覚いたとか、親の地位・地盤がどうかとか、地元出身がどうかとか、家柄云々ということでの区別は廃棄するべきであろう。しばしば後継企業はアウトサイダー扱いされている経営から生まれる。青年部活動は優れたアウトサイダーをインサイダーにしてやく、組織化活動に力を入れねばならない。それだけ青年部活動に魅力をつけねばならない。そのためのアイデアが、実は自分の経営組織に魅力をつけるために作かせるはずである。

青年経営者が経営者としての自覚を育てることは必要だが、従業員をも「――特に若い従業員を――」経営をのぼす資産と考えなければ、組織の地位は自覚が、もっと高まる。

翔け世界へ、新しい時代の開拓者

各委員会レポート特集

組織強化委員会

組織率向上にむけ 会員勧誘のパンフ作成

組織強化委員会では、今年度の事業計画のトップにあげられた組織率向上を最重点課題として捉えた活動を推進している。

全国四百九十六会議所中、青年部の設置率は六八・二％で未組織の所が百九十八地区に及んでいる。さらに全国二百二十八の青年部のうち、商青連への加入率は七八・一％となっている。このため、青年部設置の働きかけと同時に、商青連加入に向けた二つのプログラムが必要になってくる。

そこで、今年度は初めて会員勧誘のためのパンフレットを作成し、我々商青連の活動を積極PRしていく方針で準備を進めている。

ブロック大会では「いま一度語ろう青年部」をテーマに総合的な視野から組織を語り合い、これら意識を吸収しながら、商青連の役割とは何かを再確認している。こうした活動の中から、次代を担う青年経営者にとって商青連が必要不可欠な組織と いう認識が高まってくるものと信じたい。

なお、商青連では、都道府県ごとの青年部連合会設立のための準備に助成金を出している。また、青年部設置、商青連加入を推進するための要綱案を各地区商連宛てに送付している。こういったものを活用されることに協力をお願いしたい。

（委員長　徳永孝雄）

広報委員会

「生きた動き」伝えたい

今年度は青森商工会議所青年部上り出向の中村公美委員以下七名で組織し、運営を行っております。広報委員会の主たる事業は、商青連の唯一の広報誌であるこの「翔生」の企画発行です。企画内容等に関しては、読者諸方の主旨を理解しながらも、新鮮さを加味しながら、会員の皆様が楽しみながら愛読いただける様、工夫努力をしております。中にして委員長が機関誌発行等に注力に明らかな本誌の発行の成否は、広報活動者の皆様がいかにタイムリーな上まで伝えるかという問題だけです。

私達の商青連も創立八年を経過し、個別・指針もかなり、会員の意識も一部々に確立され、単令議所や対外的にもその存在意義が認識されつつあります。そんな雰囲気の中にあって広報委員会としては、遅まきながら商青連の組織として、真の広報活動とはいかにあるべきかを再検討し、実行すべき方策を検討を始めております。マスコミ等を利用した対外広報活動は大きく、難しいものがあります。まず対内広報が中心となるこの「翔生」も、全国の会員の皆様に参加いただけるように、商青連の生き方をお知らせし、ご意見をいただける様なレポート等も掲載できればいかがか、委員会員で知恵を絞って研究中ですので、会員諸兄も各事業位を通して、是非広報委員会にご参加いただければ幸です。

（広報委員　青笹由一）

青年部の簡略名称等検討

よいイメージと悪いイメージ(3)これからの商工会議所青年部の持つべきイメージ(4)簡略名称、愛称(5)ロゴタイプ(6)コーポレートカラー(7)CIに関する意見について、アンケート調査を実施、九十名の回答が寄せられた。その内、(1)については回答者の積極性・意識・品位等の回答が多く、(2)のイメージカラーについては若さ・情熱感・明大さをイメージするカラー系統が圧倒的に多かった。

簡略名称・愛称・ロゴタイプ・コーポレートカラーの検討

先のイメージ調査を踏まえ、現在検討中で決松市の全国大会に発表いたしますので、ご期待ノ

研修委員会

国際化へ海外経済視察団

（委員長　大宮哲郎）

本年で創立八年目を迎えた商青連は、「開け世界へ、新しい時代の開拓者」のスローガンのもと地域経済の活性化、国際化を提唱してきた。その一環として、新たな経済対象国として注目を集めている東南アジア諸国へ経済視察団を派遣した。視察国は、中小企業の海外進出の可能性を探る。を目的とし、各地の進出日系企業を訪問し視察した。

また、現地の日本人商工会議所をはじめ進出日系企業の幹部の方との懇談会を設け、実情を調査してきた。総括として、中小企業の進出という面においては、労働事情等種々の問題が解決しやすい状況にあるのそれぞれの国により投資国、投資投資等に法的内容が違い、まだまだ研究する必要がある。直接投資できる国できない国に分かれているが、どちらにしても信頼できるパートナーを見つけることは一番肝心ではないか。

今回の視察は八日間に四カ国四都市を回る強行日程ではあったが、確かな手応えを参加者はつかんだのではないかと思う。幸いに日本商工会議所は東南アジアに大変太いパイプと人脈と情報網があり、今回の視察にも大変お世話になった。さらに、具体的な提案を考える場合にも大きな指針として考えていくと確信をした。

終わりに参加者の皆様のご協力により小林団長以下全員、無事元気に初期の目的を達して帰国できましたこと、研修委員会として大変ありがたく感じた次第である。

（研修委員長　和田　忠）

総務委員会

今後の基本ルールづくり

商青連は、発足以来十年の年月を経過して来ているが、商青連へ加入する青年部も多くなり、時代に合った新たな変革を求められているのではないかと思われる。

このような環境の中、日本経済が世界の中で目まぐるしく変化し、国際化の進展や価値化・多様化する経営環境のもと、地域の商工会議所の果たす役割がいま問われている。時代の流れを正しく認識し、商青連の今後のあり方を検討に考え、基本ルール作りをし、各商工会議所青年部と連絡を取れる組織作りのため、総務委員会は次の事業に取り組んでいる。

1、全国大会の開催地および開催要綱の協議
2、商青連役員選出要綱の見直し
3、青年部設置に関するマニュアル の作成
（各地青年部の新年度幹部、名称統一化のフローアップ等）
4、青年部設置状況調査の実施
5、諸行への挑戦　の出版企画
6、第十二、十四回全国大会の開催

以上で、今年度中にまとめ各中を したい。

（総務委員長　伊藤隆）

商工会議所青年部の設置状況（都道府県別）

第6回商工会議所のうち、130商工会議所に設置（設置率：68.1%）

ブロック名（設置数／率）	都道府県名（設置所数）	設置商工会議所
北海道（1/1(100.0%)）	北海道（1/1）	函館、岩見沢、旭川、釧路、帯広、室蘭、苫小牧、北見、夕張、網走、稚内、留萌、士別、名寄
東北（16/42(38.1%)）	青森（5/8）	青森、弘前、八戸、十和田市、五所川原
	岩手（1/6）	一関、花巻、宮古、釜石、盛岡、大船渡
	宮城（3/5）	仙台、塩竈、石巻
	秋田（2/5）	秋田、大曲
	山形（3/5）	山形、酒田、鶴岡
	福島（2/6）	福島、郡山、白河市郡、いわき、会津若松、須賀川、会津坂下、相馬、田村市
北関東甲信越（22/50(44.0%)）	群馬（3/6）	前橋市、高崎、太田
	栃木（2/4）	宇都宮、足利
	茨城（3/4）	土浦、水戸
	山梨（2/5）	甲府、韮崎
	長野（12/20）	長野、上田、小諸、飯田、諏訪、佐久、松本、大町、飯山、中野、須坂、伊那
関東（71/94(75.5%)）	埼玉（14/19）	浦和、大宮、川越、熊谷、川口、春日部、所沢、飯能、深谷、秩父、本庄、東松山、狭山
	千葉（10/14）	千葉、市川、船橋、木更津、成田、佐倉、柏、八千代、鴨川、銚子
	東京（17/17）	東京都、千代田、中央、港、新宿、文京、台東、墨田、江東、品川、目黒、大田、渋谷、豊島、荒川、足立、葛飾、江戸川
	神奈川（11/11）	横浜、川崎、横須賀、藤沢、相模原、厚木、小田原、秦野、平塚、茅ヶ崎、鎌倉
	静岡（15/16）	静岡、清水、沼津、富士、三島、伊豆、浜松、掛川、袋井、磐田、焼津、藤枝、島田、御殿場、富士宮
東海（31/44(70.5%)）	愛知（19/19）	名古屋、一宮、豊橋、豊川、春日井、岡崎、刈谷、碧南、知多、東海、瀬戸、犬山、小牧、尾張旭、豊田、蒲郡、津島、稲沢、半田、大府、東海市、知多市、尾張東部
	岐阜（7/11）	岐阜、大垣、高山、多治見、美濃加茂、可児、各務原
	三重（5/9）	四日市、鈴鹿、亀山、伊勢、津
近畿（46/67(68.7%)）	滋賀（3/4）	彦根、近江八幡、草津
	京都（4/5）	京都、宇治、舞鶴、福知山
	大阪（10/10）	大阪、堺、豊中、吹田、枚方、高槻、八尾、寝屋川、守口、東大阪、大阪市東部、大阪市西部、大阪市南部、大阪市北部、大阪市中央部、大阪市東淀川部、大阪市東住吉部、大阪市西淀川部、大阪市生野部、大阪市城東部、大阪市都島部、大阪市港部、大阪市大正部、大阪市浪速部、大阪市西部、大阪市天王寺部、大阪市住吉部、大阪市東成部、大阪市旭部、大阪市西成部
	兵庫（8/8）	神戸、尼崎、西宮、明石、姫路、加古川、三田、宝塚
	奈良（3/3）	奈良、橿原、大和高田
	和歌山（1/1）	和歌山
中国（19/31(61.3%)）	鳥取（1/1）	鳥取
	島根（2/2）	浜田、出雲
	岡山（3/3）	岡山、倉敷、笠岡
	広島（3/5）	広島、呉、三原、福山、尾道
	山口（10/10）	下関、宇部、山口、徳山、小野田、萩、防府、岩国、光、下関市東部
四国（17/26(65.3%)）	徳島（2/2）	徳島、鳴門
	香川（3/4）	高松、丸亀、坂出、善通寺
	愛媛（3/5）	今治、松山、八幡浜、新居浜、西条
	高知（9/15）	高知、中村、安芸、須崎、宿毛、土佐清水、室戸、南国、香南市
九州（34/77(44.2%)）	福岡（10/13）	八女、博多、行橋、飯塚、田川、日田、久留米、大牟田、北九州
	佐賀（2/4）	唐津市、多久、鹿島、武雄
	長崎（3/5）	長崎、島原、諫早、五島、佐世保
	熊本（3/5）	熊本、八代、荒尾
	大分（3/6）	別府、大分、中津、玖珠、日田、津久見
	宮崎（2/5）	日南、宮崎
	鹿児島（3/5）	鹿児島、鹿屋、竹田
	沖縄（1/1）	沖縄

	所属商工会議所
都道府県連・連絡協議会	北海道連絡協議会、青森県連、宮城県連、山形県連、福島県連、富山県連、茨城県連、群馬県連絡協議会、埼玉県連、神奈川県連絡協議会、静岡県連、三重県連、滋賀県連、京都府連、和歌山県連、鳥取県連、島根県連、山口県連、徳島県連、香川県連、愛媛県連、高知県連、福岡県連、佐賀県連、長崎県連、熊本県連、大分県連、宮崎県連、鹿児島県連、沖縄県連

（編集後記）はじめに、プロック大会の例制言をいただいた方に、報告書の一部を削愛したことに対してお詫び申しあげます。全国からの任意的な寄稿のためとはいえ、貴重な時間をさいてまとめた原稿の中から編集する側としても苦しい選択だったことをご理解ください。

編集担当国相広美の方は、後日研修委員会で勉強に小野子をつくるとのことですので、委員長以下四名分に留めました。

「一般的について編集人は「原すことは苦にしないが、書くことは苦手」なようです。その人の性格や趣味、趣味などによって違ってきますが、物事を起すようにみる人と、書くようにみる人がいます。どちらが良いとは言えませんが「書くようにみると読すことが明確になる」そんな気がします。

いくら立派な話でもやたら長かったり、同じことを繰り返していたのでは聞く方が厭になります。話す場合は「一度書いて要点をまとめて話す」大事な点をする時こそ必要です。